

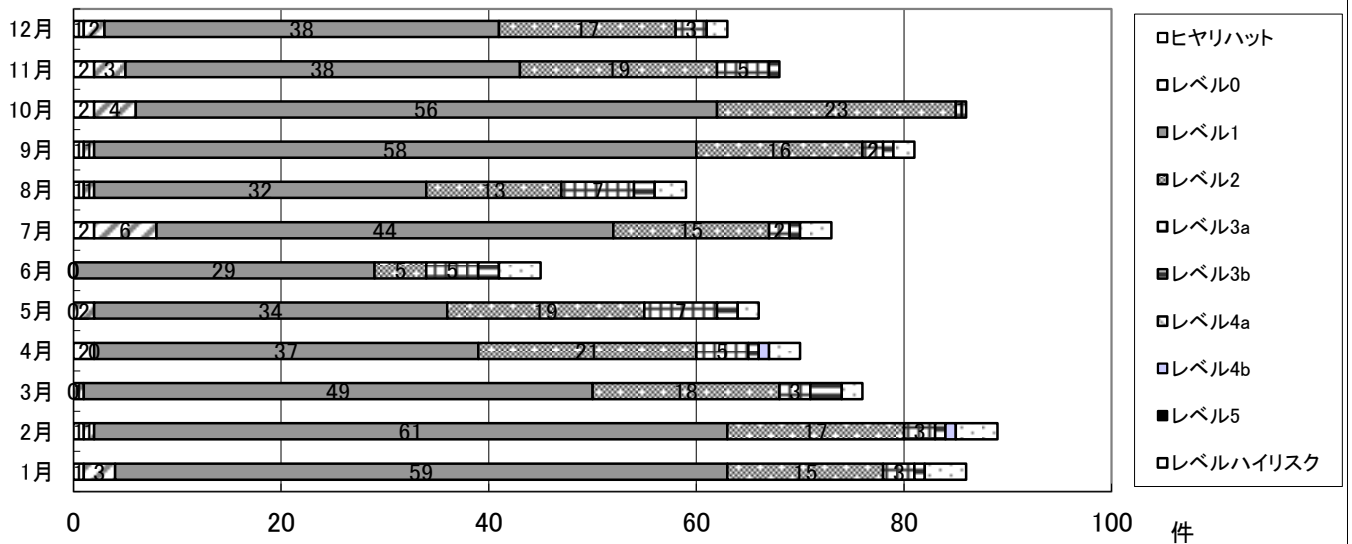
## インシデント・アクシデント報告

- \* インシデント・・・ 患者様に被害を及ぼすことはなかったが、日常診療の現場で“ヒヤリ”としたり“ハッ”とした経験を有する事例。
- \* アクシデント・・・ 医療に関わる場所で、医療の全過程において発生する全ての事故のうち、患者様に何らかの被害が及んだ事例。

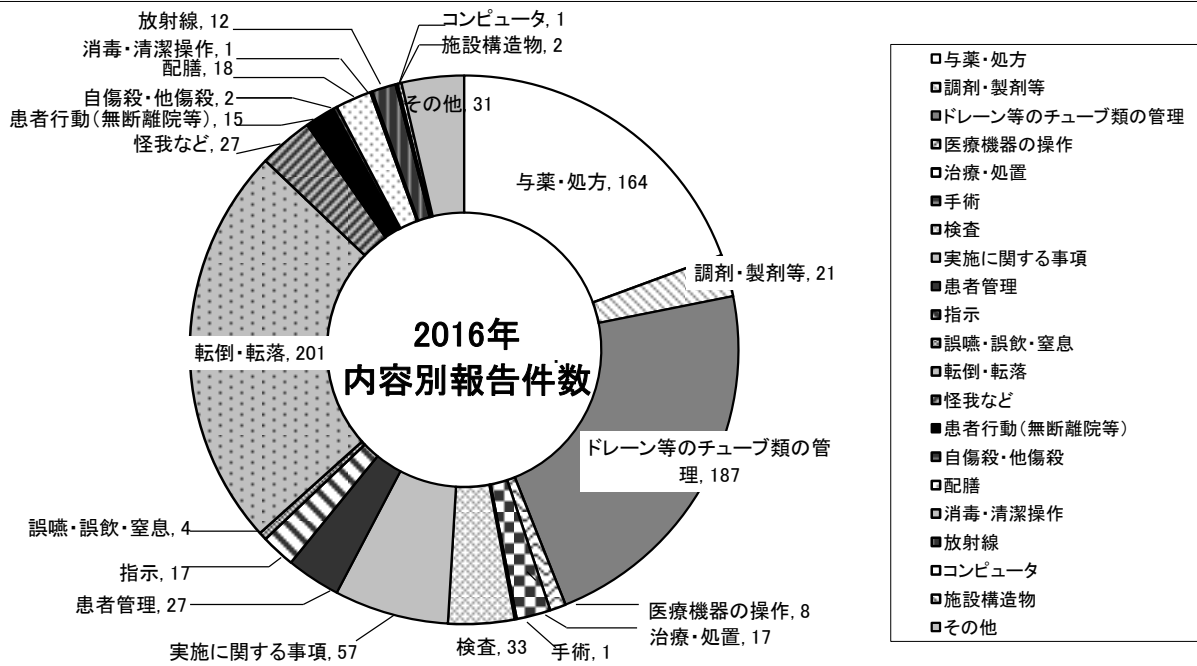
当院では医療事故対策の一つとして、国立大学付属病院 医療安全管理協議会で定めた「影響度分類」を参考にアクシデント・インシデント報告を下記の9段階に分けて集計しています。

レベル	傷害の継続性	傷害の程度	傷害の内容
レベル0	-	-	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
レベル1	なし	-	患者への実害はなかった (何らかの影響を与えた可能性は否定できない)
レベル2	一過性	軽度～中程度	処置や治療は行なわなかった (患者観察の強化・バイタルサインの軽度の変化・安全確認のための検査などの必要性は生じた)
レベル3a	一過性	中程度	簡単な処置や治療を要した(消毒・湿布・皮膚の縫合・鎮静剤の投与など)
レベル3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した (バイタルサインの高度変化・人工呼吸器の装着・手術・入院日数の延長・外来患者の入院・骨折など)
レベル4a	永続的	軽度～中程度	永続的な傷害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない
レベル4b	永続的	中程度～高程度	永続的な傷害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
レベル5	死亡	-	死亡(現疾患の自然経過によるものを除く)
レベルハイリスク			レベル0ではあるが、実施されたらレベル「4or5」が予想される

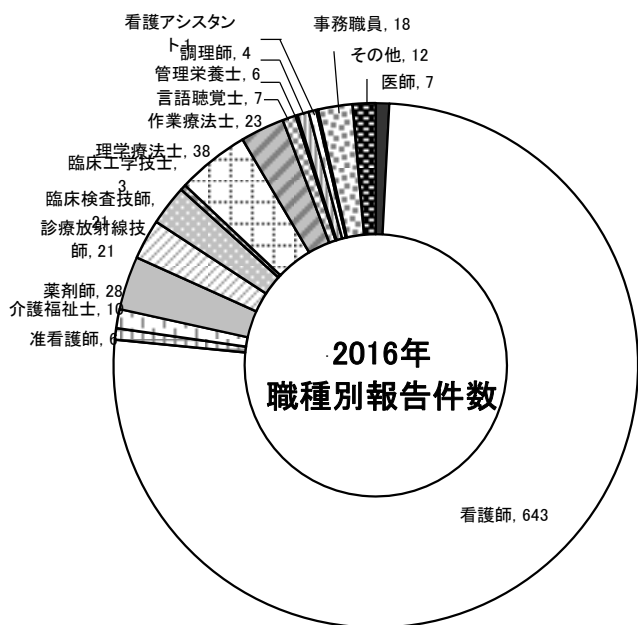
### 2016年 レベル別報告件数



### 2016年 内容別報告件数



### 2016年 職種別報告件数



### 2016年 部署別報告件数

